平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社ウェルサポート		
事業所名	グループホーム「第二わらび苑」	ユニット名	Ⅰ
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1622-63		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4－3－7　フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年12月14日	評価確定日	平成　31年　1月　16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「第二わらび苑」は、平成16年に小規模団地の中に1ユニットで開設し、平成17年には2ユニット目を増設して現在2ユニット(定員18名)で運営しています。団地内の人々とは団地入口の花壇の整備などを通じて日頃から親しく接しながら日々楽しく生活しています。開設以来地域の方が認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう行政、福祉事業者等と協働しながら活動しています。また、今までの実践から学んだことを家族介護教室や各種団体に対する講話等を通じて地域のために活かし、常に前を見つめながら地域の課題克服のため積極的に活動することで、その中心的役割を担っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第二わらび苑」は2つのユニットがある。玄関からの景色は自然豊かで、山や空を眺めることができ、ご利用者が山の「シバ」を採り、仏壇に活ける光景も日常にある。前ホーム長も、現ホーム長も含め、花を愛する職員が多く、バラ園や四季折々の花々も愛情豊かに育てられ、ご利用者や家族、地域の方からも喜ばれている。ホーム内研修の時に職員が作られた植木鉢も元気に育っており、人にも植物にも優しい職員が育っている。30年は家族と過ごす機会を増やし、体育館で行われた「ミニミニ運動会」も好評で、手作りのお弁当も楽しまれた。準備段階から職員が結束し、ご利用者の体調などに配慮しながら、楽しい1日を過ごすことができた。日々の食事も大切にされており、理事長や園芸部の職員が作る美味しい野菜などを使い、手作りの料理が作られている。「自立支援」の視点も素晴らしく、「歩けそう」「できそう」などが職員の合言葉になっており、車いすで入居された方が歩けるようになり、職員の大きな喜びになっている。今後も「わらび苑」の取り組みの発信方法を検討していく予定である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、事業所の理念を理解・共有して認知症の方が住み慣れた地域で暮らしつづけられるよう実践している。	30年度は家族も一緒に楽しむ機会が増え、「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」と言う理念の実践に繋げてこられた。地域の方との交流も継続し、地域の春の祭礼やお寺の花祭りにも参加されており、地域の方や保育園児との交流も楽しみの1つになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り見物、保育園児の来苑、学童クラブ児童,マンドリンクラブの来苑など日頃から幅広く地域と交流している。	敬老祝賀会で、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方がﾌﾗﾝﾀﾞﾝｽや踊り等を披露して下さった。お寺の花祭りに参加して甘茶を飲まれたり、お寺の学童ｸﾗﾌﾞの子ども達と七夕作りを楽しまれた。保育園児の訪問もあり、踊りを披露して下さり、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝｸﾗﾌﾞの伴奏で「七つの子」の合唱を楽しむこともできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで培ってきた知識を介護教室などを通じて地域の人々に向けて手かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自己評価、外部評価の結果報告や利用者の介護度の推移等も報告して出席者から様々な意見を伺い、サービス向上につなげている。	家族全員に会議のご案内状を出し、ご利用者全員に声かけしている。配布資料には行事の写真を貼り、30年は「利用者別介護度推移表」も作成し、参加者の方からも好評であった。西海市の現状を含めて今後の検討を続けており、議事録も時間をかけて丁寧に作成されている。	今後も議題に応じて、地域の方々（学校関係者や警察など）にお声かけし、より多くの方にホームの取り組みを理解して頂くと共に、西海市の今と未来を一緒に考えていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市当局及び関係機関とは常に情報交換できる場を構築しており、地域のために協働して取り組んでいる。	理事長は認知症地域支援体制構築等推進協議会の会長や、介護保険事業計画策定委員会の委員長等を務めており、市の課長や各関係機関と共に西海市の今と未来の検討を続けている。ホーム長や計画作成担当等も市を訪問し、入退居情報や取り組みを報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、如何なる場合も身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、研修も行われた。「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えを職員は理解しており、職員の優しい対応で穏やかに過ごされている方が多く、夜も安眠されている。家族にもﾎｰﾑの方針とﾘｽｸを説明し、対応策の検討が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止関連法令を学ぶ機会があり、その内容を理解し、虐待が見過ごされないよう虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援法や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方が利用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書は、利用者の家族等が理解できるように懇切・丁寧に説明し、納得してから契約の締結を図っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対しては、普段から気軽に意見等が聞けるような関係を築いており、出された意見や要望で運営に反映できるものは、反映させている。	面会時や電話で要望を伺っている。家族参加の行事を増やし、家族の方が歌を披露して下さったり、体育館でのﾐﾆﾐﾆ運動会も「面白かった」と好評であった。遠方の方の面会時は駅までの送迎を行う時もあり、車中で色々な思いを伺っている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、ミーティング等で出された意見・提案について運営に反映できるものについては反映させるようにしている。	職員同士のチームワークも良く、職員の特技を発揮して頂くと共に、職員の潜在能力も引き出している。生き生きと仕事をしている職員が多く、ホーム内研修も継続している。ご利用者との懇談会や行事、日々の料理等のアイデアも素晴らしく、押し寿司なども好評であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務態度や経験などを勘案して、やりがいが持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々のケアの実際とスキルを把握し、ミーティングや職場内研修等を行うことで職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市福祉施設連絡協議会に加盟しており、他の福祉施設の職員と交流できる場を確保しており、その活動を通じてサービス向上が図れるように取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に情報提供書や関係者から本人が困っている事や要望等を聴き取り、本人が安心して暮らせるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族が困っている事や要望等を聴き取り、家族が安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人や家族が求めているサービス内容を見極めて、その提供ができるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に学ぶ姿勢を持ち、共に楽しく暮らせるような関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から何でも話し合える関係づくりに努め、本人と家族の絆を大切にて、共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や物を大切にし、その関係が途絶えないような支援をしている。	ｾﾝﾀｰ方式を利用し、生活歴（馴染みの人や馴染みの場所等）の把握を続けている。近所の方の面会もあり、居室でゆっくり過ごせるように配慮している。花祭り等の地域行事や病院の待合室で馴染みの方と交流したり、家族とお寺や食事に行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係が把握できるよう心掛け、それぞれが孤立することなく楽しく利用者同士が支え合えるような場面づくりを支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了しても、今までの関係を大切にして、必要に応じて本人・家族等の相談を受けたりして、その支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から自分の思いや意向を表出できるようなコミュニケーションを図り、その思いや意向の把握に努めている。	ご利用者に寄り添う時間を増やしてこられた。センター方式やアセスメントシート、個人記録やコミュニケーション記録も活用し、「釣りに行きたい」「家に行きたい」等の要望を伺うと共に、家族への思いやご自分の身体への思い等を把握し、記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活習慣等を聴き取り、本人の暮らし方を聴き取り、本人を中心にしたサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の過ごし方や心身状態及び有する能力について日誌等で把握し、その中から見極められるよう日頃から状態把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関わり、家族、関係者と話し合い、本人を中心に据えて現状に即した介護計画を作成している。	ｾﾝﾀｰ方式（暮らしの情報ｼｰﾄ等）やFAST等も活用し、「できること」「わかること」等を把握している。利用者ADL等調査票も職員個々に記入し、職員間で検討している。介護計画（1～3表）や手順書（職員作成）を作成し、体操やﾘﾊﾋﾞﾘ、食器拭き等の生活ﾘﾊﾋﾞﾘも盛り込まれている。	今後もﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの視点を踏まえ、ADL（座位、立位、歩行、立ち上がりなど）の能力や「できそうなこと」などを追記していくと共に、家族との早々の話し合いの機会を増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録し、モニタリングを実施して職員間での情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が望むニーズを的確に捉え、柔軟な姿勢でサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な場面で地域資源を活用して、本人が心身の力を発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として利用開始前の「かかりつけ医」で受診できるようにしており、通院介助することで適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医はいつでも相談に応じて下さり、受診結果も家族と共有している。病気や内服等の勉強会も行われ、職員も小さな変化に気づき、早期受診に繋げている。行動障害が見られる時も理事長からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽがあり、真の原因を見つめると共に、専門医の受診に繋げる事ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりや気づき等の情報を提供して、適切に医療・看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう病院関係者と情報交換し、退院後のリロケーションダメージの緩和も考えた関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、主治医や家族と事業所が「出来る事」「出来ない事」等を話し合い「ターミナル指針」に沿って支援に取り組んでいる。	24時間の医療連携が困難であり、入居時に「終末期ｹｱは行っていない」事を伝えている。ご本人と家族に意向を確認し、「できるだけ長くﾎｰﾑで」「葬儀の段取りまで」等の希望を伺っており、ｾﾝﾀｰ方式に記入している。特養等の申し込み支援も行い、病院等に移られる“ぎりぎり”まで、誠心誠意のｹｱをさせて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、普段から体調の変化に気づけるようにしており、緊急時は初期対応が行える実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害・防火については、避難訓練や防火訓練等を定期的に実施し、自力避難困難者についても全職員が理解している。災害発生時には地域との協力関係も構築しており、未然に防ぐ対策も整えている。	年2回、防火訓練（夜間想定）をしており、機器の取り扱いの確認、手順の確認、火災受信機（警報）の確認も繰り返し行っている。各機関（西海市、消防署、消防団、西海市社会福祉協議会、西海市福祉施設連絡協議会、地域住民等）との協力体制もあり、災害に備えてｶｾｯﾄｺﾝﾛ、水、米、缶詰、野菜もあり、自然環境（山の木々等）の備蓄も豊富である。地盤も固く、高台にあり、地域の避難場所になっている。	今後も消防署と一緒に訓練を行う方法を検討すると共に、災害に備えたサバイバル体験（昔ながらの調理体験等）も実践していきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重し、誘導時の声かけに気をつけ、誇りやプライバシーを大切にした対応をしている。	優しい職員ばかりで、ご本人の目線と合わせ、優しく寄り添い、日頃から言葉遣いに配慮している。年長者としての敬意を持って接し、ご利用者の意思決定を大切にした声かけをしている。職場内研修で、SNSを含めた個人情報管理、情報漏洩対策を周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望の表出ができるよう、ゆっくり待って働きかけ、自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを大切にして希望にそった過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援し、服装などに乱れがあれば、さりげなく直している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苑で出来た野菜や家族が持って来て下さった食材や新鮮な食材を使い、その食材を話題にして語らい、時には野菜の皮をむきや下膳等も手伝ったりして、楽しく力が発揮できる場面を作っている。	理事長が作られる野菜が美味しく、３食職員が美味しい料理を作られている。彩りも綺麗で、ご利用者も「ごちそうね」「美味しいね」と喜ばれている。ご利用者も芋づるやツワの皮むき、テーブル拭きや食器洗い、食器拭き等も自分からして下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分補給量を常に把握し、カロリー計算も定期的に実施しながらひとり一人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の状態に応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを排泄チェック表で把握しており、必要に応じてトイレ誘導等を行っている。	排泄ﾁｪｯｸ表を確認し、個別のﾄｲﾚ誘導を行う事で紙ﾊﾟﾝﾂから下着に変更できた方もおられる。自立支援の視点も大切にされており、ご自分から「ﾊﾟｯﾄﾞ下さい」と言われ、ご自分で交換される方もおられる。下着を着用する方もおられ、排泄状況に応じてﾊﾟｯﾄﾞの大きさを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や適度な運動、水分補給などを心掛けて、自然排便が促されるよう個々の状態に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきになっているが、希望があれば毎日入浴できるようにしている。また、入浴が楽しめて季節感を感じてもらうために、ゆず湯、菖蒲湯等も行っている。	湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれている。体調に応じて2人介助が行われ、できる所はご自分で洗われている。ｼｬﾜｰ浴の方も足浴を同時に行い、保温に努めている。起床時と寝る前は陰部清拭が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活リズムや生活習慣に合わせて、その時々の状況に応じて休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をひとり一人整理し、薬の目的、副作用、用法、用量について全職員が理解しており、服薬時には間違いがないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の得意なことを把握し、食器拭き、洗濯物たたみ等の手伝いをしてくれたり、それぞれに役立つ場面や歌を唄ったり、ゲームをしたり、楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や体調を見て散歩に出かけたり、敬老祝賀会やミニミニ運動会は、普段行かない場所で家族と共にすごせるよう支援している。	外に椅子を出して、お茶を楽しまれたり、外のﾍﾞﾝﾁで体操をされる時もある。ﾎｰﾑの庭の“ﾊﾞﾗ園”も好評で、四季折々の庭のお花を楽しまれている。季節の花見（桜・紫陽花・秋桜など）ﾄﾞﾗｲﾌﾞを楽しまれたり、海が見える場所をﾄﾞﾗｲﾌﾞし、地平線を眺めながら皆さんで感動される時もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っことで安心する人もいるので、家族と話し合ってひとり一人の希望に応じて対応している。お金を持っている時は、その金額等を家族と確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けたり、かけたりする事や手紙のやり取りは、本人の希望によりその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が利用者に不快感などを与えないよう、苑で育った草花を玄関やホール等に飾ると共に、生活感が感じられ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ﾎｰﾑの庭は四季折々の花が咲き、家族や地域の方からも好評である。ﾎｰﾑ内は日々の掃除が丁寧に行われ、換気や温湿度管理も続けている。ﾘﾋﾞﾝｸﾞも明るく、台所と一体化して広いｽﾍﾟｰｽであり、ご利用者も一緒に洗濯物たたみやﾓｯﾌﾟ掛け、食器拭き等をして下さる。廊下には行事などの写真を貼り、思い出話をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、一人になりたい時は一人になれ、また、気の合った人同士で語られ、それぞれが思い思いに過ごせる居場所が確保できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への毎朝の空気の入れ替えや馴染みの物の持込及び写真や手作りカレンダー等を貼って家族や知人が来られてもゆっくり過ごせるよう工夫している。	入居時に馴染みの物を持参して頂いている。仏壇やお位牌を置かれている方もおられ、ご本人がﾎｰﾑの外の「シバ」を採り、活けておられる。ご本人が安心できるように家族の写真を貼られたり、鏡やアルバム、鉢花、本、布団等を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、歩行器、押し車を使用している方が多いので、廊下やホール等には通行を妨げるような物は置かず、安全面への配慮をし、本人が「できること」「わかること」を活かすようにしている。		